＜古い問題で練習しようシリーズ＞「教育原理」・「保育原理」教育者　問題編

@2024sakurakosensei 転載・転売・流用禁止

問１

次の【Ⅰ群】の記述と、【Ⅱ群】にある人名を結び付けた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

Ａ　代表的なソフィスト。「人間は万物の尺度である」として、判断の基準を各人に求め、認識の相対主義に立った。

Ｂ　アテナイにアカデメイアを創設し、その学頭として教育と研究に専心した。その著『国家』は、人間の在り方を理想の共同体としての国家の中に拡大して考察するもので、教育論として重要である。

Ｃ　自分をソフィストとはみなさず、むしろ自分の無知を自覚する者とした。対話を通して善・徳の探求をするその方法は、問答法とも助産術（産婆術）とも言われる。

【Ⅱ群】

ア　ソクラテス

イ　プラトン

ウ　プロタゴラス

（組み合わせ）

	Ａ	Ｂ	Ｃ
１	ア	ウ	イ
２	イ	ア	ウ
３	イ	ウ	ア
４	ウ	ア	イ
５	ウ	イ	ア

問 2

次の文の著者は誰か。正しいものを一つ選びなさい。

遊戯は、幼児の発達の、この時期の人間の発達の、最高段階である。というのは遊戯ということば自身もしめしているように、遊戯は、内面的なものの自主的な表現、内面的なものそのものの表現にほかならないからである。遊戯は、この段階における人間のもっとも純粋な精神的産物である。同時に、全人間生命の、人間および事物のなかの内面的な、ひめられた自然生命の原像であり模像である。したがって、遊戯は、遊戯をしている子どもたちにも、それをみている大人たちにも、ともに喜び・自由・満足・安息を与え、まわりの大人たちとの和合をもたらすものである。あらゆる善の源泉は遊戯にあり、また遊戯からあらわれてくる。しっかりと、自発的に、黙々と、忍耐づよく、身体がつかれるまで根気づよく遊ぶ子どもは、きっと、また有能な、黙々として忍耐づよい、他人の幸福と自分の幸福のために献身する人間になることであろう。この時代の幼児の生活のもっとも美しい姿というのは、遊んでいる子どものことではなかろうか。――遊戯に没頭しきっている子どものことではなかろうか。――遊戯への完全な没頭の後に眠りこんだ子どものことではなかろうか。

1　ルソー
2　ペスタロッチ
3　モンテッソーリ
4　フレーベル
5　デューイ

問 3

次の著作を年代の古い順に左から右に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

『民主主義と教育』
『教育の過程』
『児童の世紀』

（組み合わせ）
1　『民主主義と教育』『児童の世紀』『教育の過程』
2　『児童の世紀』『民主主義と教育』『教育の過程』
3　『児童の世紀』『教育の過程』『民主主義と教育』
4　『教育の過程』『児童の世紀』『民主主義と教育』
5　『教育の過程』『民主主義と教育』『児童の世紀』

問４

次の文は、ある人物が提唱した学校体系の構想である。この人物は誰か。正しいものを一つ選びなさい。

年齢と発達段階に応じて区分された「母親学校」（０～６歳）、「母国語学校」（７～ 12 歳）、「ラテン語学校」（13 ～ 18 歳）、「大学」（19 ～ 24 歳）という統一的な学校体系の構想を提案した。

母親学校は、母親を教師として行う家庭での教育を意味していた。母親学校は、６歳までの乳幼児が「母親の膝の上」で受ける基本的な学習の場であるが、その教育には、実に広範囲で豊かな内容が盛り込まれていた。自然学、天文学、家政学、音楽、詩などの学芸教育、さらには道徳教育、宗教教育、健康教育と、多岐にわたっている。彼は、「すべての人にすべてのことを教える」という教育システムを構想した。

１ コメニウス（Comenius、 J. A.）
２ カント（Kant、 I.）
３ オーウェン（Owen、 R.）
４ ヘルバルト（Herbart、 J. F.）
５ コンドルセ（Condorcet、 M.-J.-A.-N. C.）

問５

次の文の著者は誰か。正しいものを一つ選びなさい。

すべてのもののなかに、永遠の法則が、宿り、働き、かつ支配している。この法則は、外なるもの、すなわち自然のなかにも、内なるもの、すなわち精神のなかにも、自然と精神を統一するもの、すなわち生命のなかにも、つねに同様に明瞭に、かつ判明に現われてきたし、またげんに現われている。（ 中略 ）このすべてのものを支配する法則の根底に、すべてのものを動かし、それ自身において明白である、生きた、自己自身を知る、それゆえに永遠に存在する統一者が、必然的に存在している。（ 中略 ）この統一者が、神である。

すべてのものは、神的なものから、神から生じ、神的なものによってのみ、神によってのみ制約される。神のなかにこそ、すべてのものの唯一の根源がある。

１ ルター（Luther、 M.）
２ カルヴァン（Calvin、 J.）
３ ルソー（Rousseau、 J.-J.）
４ ペスタロッチ（Pestalozzi、 J. H.）
５ フレーベル（Fröbel、 F. W.）

問６

次の【Ⅰ群】は、大正期から昭和のはじめにかけて活躍した人物についての説明である。その説明と【Ⅱ群】の人名とを結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

A 「自由画とは、写生、記憶、想像であり、臨本にたよらない児童の直接の表現をさす。愛をもって創造を処理する教育であり、引きだす教育である」と手本の模写をさせる臨本主義の図画教育に疑問を呈し、自由画教育運動を興す。子どもの自由な表現を尊重し、個性や創造性を引き出す「リアリズムの信念」を訴えた。

B 多数の優れた童謡を遺した。童謡集『トンボの眼玉』（大正８年）には、「春は早うから川辺の葦に、蟹が店出し、床屋でござる。チョッキン、チョッキン、チョッキンナ」という「あわて床屋」も収められている。

C 当初は小説家としての道を歩んでいたが、長女の誕生を契機に童話の創作に取り組むようになった。従来の児童向け雑誌の商業主義的な傾向を憂慮し、1918 年に雑誌『赤い鳥』を創刊。芸術性の高い童話、童謡などを提供し、児童詩や児童の作文指導などにも取り組んだ。

【Ⅱ群】

ア　山本　鼎

イ　北原　白秋

ウ　鈴木　三重吉

（組み合わせ）

	A	B	C
1	ア	イ	ウ
2	ア	ウ	イ
3	イ	ア	ウ
4	イ	ウ	ア
5	ウ	イ	ア